工業つ子

NO.037
―発行日―
2009.09.14
―編集―
長崎工業高校新聞部
―発行―
長崎工業高校新聞部

風を受けて勝利の海へ！

ヨット部インターハイ 個人優勝・団体準優勝！

▲ おめでとう！

八月一六・一七日に和歌山県にて全国高校総合体育大会「近畿まほろば総体・ヨット競技」が行われ、女子FJ級で山口さん・谷口柚さんペアが優勝。中川さん・松浦さんペアが四位という好成績を収めました。個人の優勝は長崎県勢、六年ぶりの快挙とか。長工としてはもちろん初めて。デュエット（団体）では銀メダルを獲得したヨット部。競技二日目まではトップを独走。しかし、最終的にはわずか四点差でライバル校である別府青山高校に惜敗。とても惜しい結果となりました。

九月三日には体育館で報告会が行われました。

ヨット部にインタビュー

C3山口さん・中川さん

Q今どんな気持ちですか。

山口―部員全員で三嶋先生のために戦えてよかった。

中川―報告会という場を設けて頂き、三嶋先生やその他応援して下さった皆さんに感謝の気持ちを伝えられて良かった。

Qライバルはどこですか？

山口―別府青山。

中川―大分の別府青山。

Q今一番食べたいものは？

山口―・・・。

中川―特に・・・。

Q今までの試合や練習で大変だったことは。

山口―去年のチャンピオンチームなのでプレッシャーはあったが、大変とは感じなかった。

中川―大変というよりも、すごくいい流れでインターハイまで繋げられた。

◀輝くメダルと選手☆

Qこれからもヨットを続けますか？

山口―続けます！

中川―もちろんです！

Qあなたにとってヨットとは？

山口―三嶋先生や大切な仲間と本気で向き合わせてくれた本当に大切なもの。

中川―三嶋先生やヨット部の仲間と出会わせてくれた大切なもの。

Q三嶋先生に一言。

山口―三嶋先生のおかげで貴重な三年間を過ごすことが出来ました。先生と出会えて本当に良かったです！ありがとうございました。

中川―三年間三嶋先生とヨットが出来て本当に良かったです。これからもまたお世話になると思います。よろしくお願いします！

監督の三嶋先生に聞く！

目がキラキラ輝いている先生に爽やかに答えていただきました。

Q今大会を振り返って…。

―選手が百パーセントの力を出せて非常に良かった。

▼ぜーんぶヨットです。

Q三年生に一言。

―「ありがとう」この一言に詰まっている。

Qこれからの目標。

―まだ一からやり直し。来年はもちろん優勝！

ヨット部全体が固い絆で結ばれているんだなと思いました。V2こそなりませんでしたが、勝利よりも大切なことが長工ヨット部にはあるのではないでしょうか。これからも、更なる活躍を期待しています。いつか現場に行きたいと思う新聞部でした。

ドイツで考える。

八月の末にドイツ研修に行ってきました。八月後半のドイツの気候は長袖でも過ごせるほど。現地に降り立った瞬間、自分を取り巻く空気に異国を感じました。

ゆったりとした時間と人々が共存するドイツ。滞在期間中、私たちが移動を開始したのが朝の八時で、日本で言えば通勤ラッシュの時間にも関わらず、慌ただしさがなく、混雑した光景を見ることはありませんでした。

そんな地に研修に来た私たちは、一日目にニクスドルフ校、西エッセン校でその学校の生徒たちと質問をし合う会を持ちました。

こちらが一つ質問をすると、何人もの生徒が意見を積極的に述べていました。そして、自分の就いている仕事や将来設計に対する気持ちがとても強く、驚きました。私たちは現在就職活動で一生懸命になっているけれど、ふと振り返ってみると、本当に働きたいという強い意志があるのだろうかと疑問に思いました。

ドイツでは高校までは無償、大学では入学資格を持っていればどの大学にも入学可能となるなどの教育体制が整っているためか、授業中の生徒の表情も自由であり、学習意欲が溢れ出ているのが分かりました。自分の学びたいことを自由に学べる環境があるというのは、その国の文化や工業の発展へと繋がっていくのではないでしょうか。若い力の衝動を無駄にせず、自由や意志を尊重する教育。日本の教育は？と考えさせられたドイツ一日目でした。

今まで私の思うドイツは、ベルリンの壁やナチスドイツによるアウシュビッツ収容所などの負のイメージしかなかったのですが、実際に訪れてみると、とても愉快で陽気なドイツ！という言葉の似合う国。百聞は一見に如かず、とはまさにこのこと。それぞれの国を創りだしている独特な文化が私たちにとってとても新鮮に感じ、日本を客観的に見ることのできた六日間となりました。驚きと感動で興奮のドイツ！詳細は次号で。

若年者ものづくり大会

電子回路組み立て部門四位！

八月六～八日に神奈川県にて若年者ものづくりコンテストが行われました。

「若年者」ということで出場者は二十歳以下。長工からは自動車整備部門にP2岩崎君、電子回路組み立て部門にD3田中君が出場。

出発直前インタビュー。

①気がけていること

②課題は難しいですか？

③調子はどうですか？

④意気込みをお願いします。

▼岩崎君

①本番をイメージして。

②少し難しいけど高校生ものづくりに比べると簡単。

③いいと思います。

④優勝してきます。

▼田中君

①特にないです。

②かなり難しい。松尾先生がいないと出来ない。総科大の先生を呼んでやっている。専門家レベル。マニュアルも英語ばっかりの上、今回は新製品ばかり。

松尾先生はまたしても胃薬常備。開会三分前に飲むのが良いらしい？とか…。

このように話していた選手達。長崎に帰ってきた時にインタビューをしました。

①結果は？

②試合を終えての感想

③次への意気込み。

④観光はしましたか？

▼難題プログラムもなんのその！

▲真剣な眼差しの岩崎君

▼強力タッグ！

▼田中君

①プログラムがかなり難しかった。誰一人完成していなかった。

②いつもよりちょっと怖かったです。

③プログラムを重視していきたい。

④雨が降ってどこにも行けなかった。時間もなかった。東急ハンズには行った。横浜駅で弁当買ったくらい？

▼岩崎君

①入賞ならず。

②去年より難しくなった。

③レベルの低さを痛感。残るは来年のみなのそれに向けて頑張る。

④行けんかった。デパート行った。歌舞伎町に行きたかったのにぃー。

田中君は惜しくも四位。今回の大会を通してそれぞれ次への課題が見つかったようです。

田中君は今後、十一月に行われる「高校生ものづくり全国大会」を控えています。さらなる活躍を期待しています。

青春日記♪

普段できないことをするのが夏休み。一日中寝たり、海に行ったり…そんな夏休みのはずなのに何故か三千メートル級の山への挑戦をしてしまったこの夏。さて前回の続きです。

天候は回復せずに雨の中、二日目の目的地かつ宿泊地の穂高岳山荘へ出発。ここからは岩山となり風景は一変。木は皆無、足下は岩ばかりで歩きにくい上に高山の酸素に薄さがじわじわとやってきました。五分弱歩くとすぐに息が切れ、目眩。酸素が足りないという状態が身に染みました。

約三時間半で穂高岳山荘に到着。標高約三千メートルにある大きな山荘でこの日の登山客は五十人ほど。山荘の夜ご飯は思っていたよりしっかりしていて、量が多く、疲れていたのもあってか普段食べるものより美味しく感じました。食後に天気予報を見ると明日も予報は雷雨。がっかりしながら眠りました。

三日目、朝五時半朝食。大雨になるとかなり危険だということで、奥穂高岳に登る予定を変更し、来た道を通って下山。残念な思いで下山し始めて三十分、休憩をとっていると、さっきまでたくさんあった雲がどんどん流れ初め、あっという間に快晴に。雷雨と信じ、降りていたのでかなりのショック。戻るには時間的、体力的にかなりきつい距離。戻るのを諦め素直に下山。登る時に雲で見えなかった景色が全て見え、その景色の綺麗さは衝撃的でした。新聞部から頼まれていた写真撮影も達成でき一安心。

下山は二日で登った道のりを一気に一日で下りていくので簡単！ゴールは上高地。雪解け水が流れる川があり、緑に囲まれ澄んだ空気の良い場所。が、山の中と比べものにならないくらいの人の多さにびっくり。

初めて高い山に登った今回。きつかったものの景色は良く、空気も澄んでいて結構楽しめました。この登山で鍛えた体力を二学期で発揮したいと思います。

▶下山開始直後の皮肉な快晴…そびえ立つ山。

来年こそは…インターハイ

水泳・フェンシング

〈水泳―P2溝田君〉

八月十七～二十日に、大阪にて行われたインターハイ水泳競技。

なかなか厚い全国の壁。

出場した溝田君にインタビューを行いました。

溝田君―レベルが高かった。来年は決勝に残る。大阪楽しかったです。そして、水泳部の部員とマネージャー募集中とのこと。溝田君お疲れ様でした！

〈フェンシングーC3雄城君〉

フェンシング競技に個人で出場した雄城君にも話をききました。

―自分の力を出し切れなかった。来年は後輩達に頑張ってもらいたいと思う、とのことでした。最後のインターハイお疲れ様でした！

トミーな日々 ～もうすぐ敬老の日です～

うちには
七十三歳になる
クソ元気な
じーちゃんもいます
（精一杯似せてみました）

この平和を続けるために…

長崎に原爆が落とされて、もう六十四年目の夏がきました。平和に暮らしている私たちの日常生活は、核や戦争など平和を脅かすものが常に隣り合わせていることを忘れてはなりません。

八月九日、本校でも原爆慰霊祭が行われました。

当時、長崎工業の校舎は現在の南山高校の位置にあり、そこで原爆による被害を受けました。その時亡くなられた方のご冥福を祈る式典として慰霊祭は同窓会によって毎年執り行われています。黙祷を捧げ、亡くなられた方々の御遺族が参列されています。始まる前の短い時間でしたが、何人かの方にお話を伺ってみました。

▲八月九日、一分の黙祷

Q慰霊祭には毎年来られていますか。

―色んな用事がなければ。

―毎年来ている。

―昔は南山、今は松山と交互に来ている。

Q八月九日にどんなことを思いますか。

―兄が亡くなったので近づくと当時のことを思い出す。

―当時、厳しい経験をした先輩のことを考える。

―当時十四歳。被爆者ではないが戦争は人を殺した人が善人、殺せないのは悪人。「ひどい」の一言を思う。

Q工業生に一言…。

―県下の学校で敷地内で慰霊祭をするのは長工くらいなので続けていってほしい。

―雨の日も慰霊祭に参加してくれてありがたい。

―すごいなあ日本一…これからも頑張って！

それぞれに、戦争や平和に対してのたくさんの思いがあるようでした。月日が経ち、被爆者の方々が減っていくなかで、未来の子ども達に戦争の恐ろしさを伝えていくのは、他でもない私たちです。

▲祈りを捧げます

カモン、後輩 ～オープンスクール

八月十日、長工のオープンスクールが行われました。空は曇っているのに、なんだこの暑さは！

中学生を見るとあの頃の自分を思い出す…あの頃は若かった……。

各科それぞれ工夫の施された発表で、中学生も保護者の方も興味津々で参加されていました。

E科

テレビ放映されたものも加えた完成度が高い映像、電気工事の実践…興味の湧くアピール満載。

D科

並べられたオシロスコープなどの器具。初めて見る実験器具に中学生の目はキラキラでした。眩しすぎ！

J科

プログラムを見ても中学生はちんぷんかんぷん。でも実際に動くのを見た時に「すごい」と言う中学生も。

M科

実際に習う金属加工の体験や旋盤作業などの実演。中学生は興味津々…。

▲す…すごい！

P科

実習で使う水槽などの見学、クイズも交えたわかりやすく楽しい説明に中学生は楽しげな表情。

I科

笑顔で丁寧に指導する三年生に中学生もめろめろ。

C科

中和滴定や銅を金にする実験。中学校の理科とは違った実験にみんなドキドキ。

A科

A科を見学する中学生について行くと、CAD室へ。興味深い説明に中学生は真剣そのもの。

《紹介した各科の三年生にインタビュー。》

Q中学生の反応は…

―どんすべり。

―笑顔でした。

―まあまあ。反応が薄かった。

―ノリが良くて、こっちとしてもやりやすかった。

―人数多い。時間短い。興味持った人が入ってくれたら良い。

Q百点中何点？

―十二点。自分の不備

―七十点くらい。噛んだりしたので。

―百点。松本君が頑張っていたから。

▼器具の説明始めま～す！

▲目が釘付けです・・・

中学生にも聞いてみました。

・たのしかった

・いろいろ見れて良かった。

・内容が難しい（J科）

・作品がすごかった（I科）

・機械のものづくりが面白かったです（M科）

中学生の興味を引きつける内容がたくさんあったようです。今回のオープンスクールに来ていた中学生の中にはいずれ長工生になる人も…。今からとても楽しみです★

本音語った！ 育友会と生徒会との懇談会

七月二十一日（火）に、育友会と生徒会の懇談会が開かれました。始めに育友会会長、生徒会長の挨拶があり、その次に簡単な自己紹介。懇談会の目的は、親が普段聞けない生徒の声を聞くということで、内容はいくつかの議題に分けられていました。

一つめは携帯電話、パソコン、インターネットの使用状況について。保護者の方が気になっているのは普段携帯で何をしているのか、月にいくら使うのか、など。生徒からは友達とメールをする、部活の確認、などの答えがでました。月にいくら使うかという質問に対して、八千円未満という意見がほとんど。保護者からは「うん」などの単発メールは良くないという意見も多くありました。

▶高校生に負けない好奇心！

◀子供も頑張ってます！

アメリカでもお元気で…

三年間長工にいたALTのクリントン先生がこの度、アメリカに帰国することに。

ということでクリントン先生にインタビュー。英語が苦手な私は少々不安でしたが、何と！噂には聞いていましたが、クリントン先生、日本語ペラペラです。

Q好きな日本語は。

―なんばしよっと？

Q好きな日本食は何ですか。

―しょうが焼き。

Q文化の違いでの驚きは…。

―本音と建前。

Q長崎の印象は？

―いい所。優しい人が多い。でも、長崎の夏は暑すぎ。

Q長工で好きな場所は？

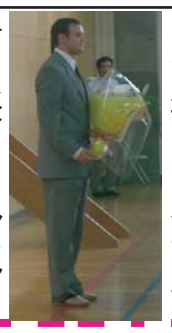
―職員室。

Q長工にいた時間はどうでした？

―めっちゃ面白かった。

そして「アメリカと日本の授業の違いが印象的。アメリカにはない体育祭が好きだった」とクリントン先生。最後に「外国に行く機会があればそのチャンスを逃してはいけない」と長工生に一言。

ありがとうございました。



▶さよならクリントン…

次に挙げられたのは服装、身なりについて。やはり意見として上がったのは腰パンとスカート丈について。腰パンについては、保護者、生徒からも格好悪いという意見がほとんど。女子生徒に対しては座った時の足の姿勢についても意見がありました。

次の議題は、日常生活におけるマナーについて。まずバスの乗車マナーについて、保護者から、学生は二人席に座ったときに荷物を膝に乗せずに横に置くという意見があり、生徒からは、携帯をマナーモードにしていない人がよくいるので、お年寄りの方のほうが良くないという意見も出ました。他には下校時、道に横並びで歩いているので、車が来たらよけて欲しいという意見もありました。

最後は将来の夢について。皆様々な夢を持っていて、モデルになりたい人も。そして、生徒から親への要望では「親の意見を押しつけずに、生徒の行きたいところへ行かせてやってほしい。」とのこと。

懇談会終了後、保護者の方々にお話しを聞くと「将来の夢をしっかり持っていて感動した」とコメント。「一度失敗しても若いから大丈夫！チャレンジ精神！」とも話してくださり勇気を貰いました。

今回の懇談会で、親だけでなく生徒も普段聞けない親達の声が聞けたと思います。双方にとって有意義な時間だったと思います。これを機に親からの要望、生徒からの要望が満たされればと思います。みなさんも来年は参加してみてはどうでしょうか。

本音のちらリズム 長工ボイス！

今月もやってきました長工ボイス！今回は二年生に「**マイブームは何ですか**」

青春真っ只中の長工生のマイブームとは！

▼答え

1音楽を聴く。2一番居心地がいいところをさがす。3音楽系。4ビートまりお。5読書。6アイポッドをつくる。7テレビを録画して編集してCMカット。そして自分でDVDを作ること。8君とのメール！9和菓子を探す！10ごんちゃんラーメンを食べること。11ピエールで花嫁修行。12ライブ（夏フェスとか）13ポケモンを見ること。14ワンピースを読むこと。15ドラクエ。16信長の野望（ゲーム）17走ること。18ポケモンのゲーム。19パワプロ。20テニス。21部活。22遠藤周作。23きつい。

数えてみよう 気づけば初級？

今回の数えてみようは振り返ってみると初級過ぎました。そんなに簡単だったものは…「**ドア**」

今回は主に八月の間に数えたのでかなり暑い中の数えてみようでした。簡単とは言っても地下二階から地上五階まで、一棟から七棟＋αある長工。上ったり下りたり。たくさん汗をかきました。いつか「数えてみよう」で何歩歩くか数えてみたいと思います。

ドアは廊下から見ると一つの教室に大体二枚ですが、実習室などによっては部屋の中にさらに部屋と部屋をつなぐドアがあったり、部屋の中に部屋があったりなど、注意すべきところが何カ所もありました。が、今まで何回もいろいろなものを数えてみてきた私としては、部屋の構造を熟知しているのでぶっちゃけ余裕でした。

結果は…

六百二十三ドア！

割と想像通りでした。実習室の隠れ扉などを期待していたのですが、思っていたよりも少なく、ちょっとだけがっかりでした。前回のイスに比べると少しインパクトにかけました。

今回は拍子抜けしたので次はもう少し手ごたえがあるものに挑戦しようかと思います。

◀この奥には何がある？

▶……檻？

編集後記

夏休み気分がまだぬけず、毎日うとうとしながら新聞をつくる日々でした。気がつけば外は秋の風。新型インフルエンザには気をつけましょう。どうやら、来月がピークらしい…。就職試験を控える三年生のみなさん、気をつけてください。